

第404号 令和7年1月

# 東京都農業会議情報

編集及び発行 (一社)東京都農業会議

渋谷区代々木3-25-3  
TEL 03-3370-7146

新年にあたって

(一社) 東京都農業会議 会長 青山 侑



青山 侑 会長

明けましておめでとうござ  
います。皆様それぞれに充実し  
て穏やかな新年を迎えられたこ  
とと思います。私は例によって  
正月休みは海外踏破でした。

昨年は皆様のご努力・ご協  
力もあって東京都では充実し  
た予算をつけて頂きました。  
しかし地価が高騰する東京  
では相続を機に農地が失われ  
る傾向がますます強まってい  
ます。  
ヨーロッパやアメリカなど  
他の先進国では強力な農業保  
護政策が講じられています。日  
本の場合はまだまだ不十分

## 第66回東京都農業委員会・

### 農業者大会を開きます

都農業会議と農業委員会地  
区協議会・連合会は「第66回  
東京都農業委員会・農業者大  
会」を令和7年2月20日(木)、  
昭島市のFOSTERホール  
(昭島市民会館)で開催し  
ます。

農業の確立に関する要望に  
ついて、②都市農業振興と  
都市農地保全に関する要望  
について、③農業委員会活  
動の積極的推進に関する決  
議について、それぞれ協議  
します。  
また、記念行事として顕  
彰事業や功労者等の表彰式  
を行います。

であり、農家の宅  
地部分を相続税猶  
予制度の対象とす  
るなど粘り強く国  
に働きかけていく  
必要があります。

誤解を恐れずに  
言えば米価の高騰  
や一部野菜価格の

一時的な上昇も原材料や資源価  
格の上昇がある中では当然の  
ことであり営農を継続できる  
農産物価格を形成すべきです。  
害獣対策も個々の農家に任せ  
るのでなく動物の種類別に適  
正生息限界数を定めるなどし  
て広域的な駆除対策を講じな  
ければならないと思います。  
そのほか多くの課題に今年  
も皆様のご指導を得て取り組  
んで参りたいと思っております。  
よろしくお願ひします。

## 都議会各会派へ要請活動を実施

都農業会議は、このほど青  
山侑会長、松本一宏副会長を  
はじめ、都農業会議の理事を  
務める地区農業委員会協議  
会・連合会の代表による東京  
都議会の各会派への要請活動  
を実施しました。

要請活動では、東京都農業  
会議の臨時総会で決議した

## 理事選任および令和7年度事業・

### 予算構想などについて協議

#### 第2回臨時総会・事業推進協議会開く

都農業会議は11月19日に主  
婦会館プラザエフ(千代田区)  
において令和6年度第2回臨  
時総会を開きました。  
議事として、欠員となつて  
いた理事1名の補充選任を行  
い、青梅市農業委員会長の加  
藤仁志氏が選任されました。  
また臨時総会終了後には令  
和5年度第2回事業推進協議  
会を開きました。  
会員に向けて東京都農業会  
議の令和7年度事業・予算の  
構想や会費について説明する  
とともに、令和6年度下半期  
の農業委員会・農業会議提携  
活動について協議しました。  
令和7年度の事業構想で



第2回臨時総会の様子

納税猶予制度が適用されるよ  
う国に強く働きかけてほしい  
との要望を伝えました。

また、農地を区市町村が買  
い取れる環境づくりなど、都  
独自の施策を求めました。

そのほか、意見書にある東  
京の農業・農地が次世代へ継  
承され、その多面的機能・役  
割が十分に発揮されるよう東  
京独自の施策について、実現  
を強く要望しました。

### 島しょ農業振興施策に関する要請活動

島しょ農業委員会協議会

島しょ農業委員会協議会（沖山慶孝会長＝八丈町）はこのほど東京都議会の三宅正彦議員への要請活動を行い、沖山会長、石野正幸会長（新島村）、加藤大樹会長（利島村）が出席しました。

要請活動では、島しょ農業委員会・農業者大会で決議した「島しょ農業振興施策に関する要望」の内容の実現を要請するとともに、意見交換をしました。

特に、農地中間管理機構に荒廃農地を譲渡もしくは10年以上無償で貸し付ける場合

### 八丈町の農業振興や新規就農など研究

島しょ農業委員会協議会

（沖山慶孝会長＝八丈町）は、11月20日・21日に八丈町にて島しょ農業委員会協議会現地研究会を開き、島しょ7町村から16人が参加しました。

本研究会は、島しょ地域の連携を深め、八丈町の農業や農業委員会活動について現地研究するもので、20日は、八丈町役場にて同協議会の活動状況や目標地図の作成状況を確認し、来年度の活動につい

に、同機構が当該農地を再生し、担い手に貸し付ける事業の創設について、実現を強く要望しました。

また、その他の主な要望内容は、左記の通りです。

- ・島しょ農業振興施策の拡充
- ・価格高騰対策等の強化
- ・鳥獣害対策の強化
- ・農地の保全と利活用対策
- ・担い手の育成・確保支援
- ・農産物流通等への支援
- ・災害に強い農業の構築に向けた支援
- ・農業改良普及事業等の強化
- ・農業関係組織等への支援

て協議しました。

その後、新規就農者を育成する担い手育成研修センターを訪ね、レザーファンなどの切り葉を栽培する浅沼壮さんより、島しょで栽培を続けていくための工夫などを伺いました。

21日は、畜産振興に寄与するふれあい牧場や町の伝統工芸品で産業でもある黄八丈の工房を現地研究しました。

### 相続による農地の減少など農業課題について意見交換

東京都選出の国会議員との意見交換会開く

全国農業会議所（國井正幸会長）は、11月28日に文京シビックホールにて、令和6年度全国農業委員会会長代表者集会を開きました。

代表者集会では、国への要請内容の決定、農業委員会活動に関する申し合わせ決議などが行われました。

代表者集会の終了後、衆議院第1議員会館にて、東京都選出の国会議員との意見交換会を実施しました。

都内の農業委員長など約30人が出席し、左記の国会議員が出席しました（選挙区順、代理出席等含む）。

- 石原宏高 衆議院議員
- 大西洋平 衆議院議員



調整作業等について説明する浅沼壮さん(左)

### 農林水産省都市農業室と国土交通省都市局の担当職員も参加しました。

松本洋平 衆議院議員  
木原誠二 衆議院議員  
井上信治 衆議院議員  
長島昭久 衆議院議員  
また、オブザーバーとして、農林水産省都市農業室と国土交通省都市局の担当職員も参加しました。

当日は、相続などを契機とする農地の減少や新規就農島しょ地域の農業振興などに

ついて、幅広く活発に意見を交換しました。



意見交換の様子

### 理事会・常設審議会だより

#### ○理事会

11月19日に千代田区の主婦会館で理事会を開いた。議事である①常設審議委員（1名）の選任については、青梅市農業委員会の加藤仁志会長が選任され、②一般社団法人東京都農業会議諸規程の改正を賛成多数で決定した。

#### ○第8回常設審議委員会

理事会に引き続き、第8回常設審議委員会を開いた。

報告事項として、①東京都から農地法第4条・第5条の農地転用許可（10月）の状況（第4条1件1,750㎡・第5条3件

#### 4,537㎡）、②農業会議から農地中間管理権の取得と使用収益権の設定・移転（11月）の状況について

それぞれ報告を行った。

#### ○第9回常設審議委員会

12月17日に渋谷区のJ A 東京南新宿ビルで第9回常設審議委員会を開いた。

報告事項として、①東京都から農地法の第4条・第5条の農地転用許可（11月）の状況（第4条1件1,351㎡・第5条1件996㎡）、②農業会議から農地中間管理権の取得と使用収益権の設定・移転（12月）の状況について、それぞれ報告を行った。

### 新規就農者による農地の利活用を研究

農地流動化現地見学会を開く

都農業会議は、12月13日、農地利用の最適化などの研究を目的に農地流動化現地見学会を開き、市町村の農業委員や事務局職員など約30人が参加しました。



シイタケの菌床栽培について説明する石井さん(左)

最初に、瑞穂町で就農した林貴太郎さんのほ場を見学しました。夏の高温やゲリラ豪雨による被害を乗り越え、工夫を凝らしながら露地野菜を生産していました。

次に立川市で市独自の農地バンク制度を活用して就農した林暲詩乃さんのほ場を見学しました。

最後に、小平市で生産緑地を借り受け、ハウスでシイタケやキクラゲの菌床栽培を行う石井翼さんの経営を見学しました。

各見学先で、新規就農者の取組みや課題を共有し、農地利用最適化への理解を深めました。

### 地域計画の策定に向け各地で協議すむ

今年度、都内では14市町村、21地区で地域計画を策定する見込みです。

そのうち、令和6年12月末までに農地所有者・担い手への意向調査が完了し、協議を実施した地区が20地区、関係機関への意見聴取を実施した地区は7地区、説明会を実施した地区は2地区でした。

協議では、プレゼンター

シオン方式を採用した地区が6地区、ワークシヨップ形式を採用した地区が4地区、車座で開催した地区が3地区、それらを併用して開催した地区が7地区でした。

各市町村・農業委員会では、1月以降も協議や関係機関への意見聴取、説明会の実施を予定しており、地域計画案の縦覧(2週間)を経て策定期

### 都市農地貸借

円滑化法の状況

都農業会議では、都市農地貸借円滑化法(以下、円滑化法)の状況について調査し、とりまとめました(令和6年9月末日現在)。

円滑化法による農業者などへの貸付は都全体で328件、57・3ヘクタール。そのうち47%が相続税納税猶予制度適用農地です。また、内訳としては賃貸借が16%、使用貸借は84%でした。

生産緑地での市民農園の開設は都全体で138件、18・0ヘクタール。そのうち45%が相続税納税猶予制度適用農地でした。開設者の内訳としては、農地所有者が全体の38%で、最も多くを占めています。

### 農地保全・利活用促進月間の活動状況

本年度も8月～10月を「農地保全・利活用促進月間」に設定し、農地利用状況調査を通じて、農地の保全と利活用の促進に、全体的に取り組みました。

また、この機会にあわせ都市農地貸借円滑化法や農地中間管理事業などの農地制度の周知や活用の促進を図る活動を実施しました。

都内の各地区の状況は、左記のとおりです。

#### 区内地区

地区全体として、概ね良好に管理されていきました。

足立区では、今後の特定生産緑地の指定の周知なども並行して行いました。

#### 西多摩地区

福生市や羽村市では、課税課や都市計画課などと連携し調査を進めました。

また、羽村市では、調査中の働きかけにより、生産緑地の貸借のマッチングが実現しました。

#### 南多摩地区

八王子市や町田市では、評価基準などを活用し、効果的に調

査を進めました。

また、稲城市では、事前調査を実施し、より効率的に調査を進めました。

#### 北多摩北部地区

概ね良好に耕作されています。

西東京市や清瀬市では、課税課や都市計画課等と連携し、調査を進めました。

#### 北多摩南部地区

概ね良好に耕作されています。

武蔵野市では、農家の事情にあわせて、対面のヒアリングを行いました。

#### 北多摩西部地区

概ね良好に耕作されています。

立川市では、調査の結果によって、農地バンクへの登録を促し、登録数が増加しました。

#### 島しょ地区

地区全体として、調査の機会に、多くの農業者から相談に対応しました。

八丈町では、農地の状況を5段階で評価し、有効活用に繋がるように調査を実施しました。

### 野菜の栄養価と効果的な摂取法を学ぶ

食と農セミナーに農業者と消費者が参加・交流

12月12日、都農業会議と都農業経営者クラブ、(公財)東京都農林水産振興財団、東京都消費者月間実行委員会



食と農セミナーの様子

は、ホテルエミシア東京立川で「食と農セミナー」を開き、農業者と消費者あわせて94人が参加しました。

「おいしい野菜のチカラを知る」畑から食卓へ健康を届けるために「食と農」をテーマにした一般社団法人食と農の生命科学研究会 代表理事の丹羽真清さんの講演後、農業者と消費者の交流会を行いました。

「野菜で重要な栄養素を摂取できることが分かった」などの感想が寄せられました。

### 再生産可能な農畜産物価格を求める

東京都認定農業者等担い手連絡会議

都農業会議は都農業経営者クラブ(吉野光政会長)との共催で12月12日に認定農業者等担い手連絡会議をホテルエミシア東京立川で開きました。

本連絡会議には、区市農業経営者クラブ代表や区市認定農業者組織代表など48人が出席しました。

「農畜産物の価格形成」をテーマに補助事業の紹介および意見交換を行いました。

「再生産可能な価格で下限を設定して欲しい」という野



意見交換会の様子

菜農家からの意見のほか、畜産農家からは「経費の高騰で経営が逼迫し限界にきている」という声がありました。

### 都内新規就農者の勉強会開く

新規就農者など34人が参加

都農業会議は、12月20日に都内新規就農者の勉強会を開き、新規就農者など34人が参加しました。



原木シイタケの生育について説明する守屋さん(右)

はじめに、株式会社corotの代表取締役峯岸祐高さんが「販路開拓について」と題して、販売先の設定や出荷調整、集荷等についての講演を行いました。

その後の現地研究会では、はじめに青梅市の新規就農者奥蘭和子さんのほ場で野菜やハーブの栽培を中心に行うCSA(地域支援型農業)について、守屋晃男さんのほ場では原木シイタケ栽培の工夫などについて話しを聞きました。

### 農業者との地域座談会を開く

国分寺市・武蔵村山市農業委員会

農業委員会で地域座談会が開かれています。

国分寺市農委会(鈴木秀男会長)では、11月に2地域で

開き、制度の説明のほか、実際に都市農地貸借円滑化法により生産緑地を借り受けた若手農業者より「規模拡大により生産力があがった」などの報告がされ、相続を経験したなどの農業委員からは「相続に備える大切さ」が話されま

した。参加者からは「とても有意義な座談会だった」などの感想が寄せられました。

武蔵村山市農委会(加藤武会長)では、11月から12月に

3地域で開き、①都市農地制度、②地域計画策定の状況などの説明がされ、参加者からは「集団に残る多摩開墾農地の活性化」や「生産緑地の保全対策」などへの意見が出されました。

### 1月～3月の日程

- 1・10 (金) 区内地区
- 1・14 (火) 西多摩地区
- 1・16 (木) 島しょ地区
- 1・17 (金) 常設審議委員会
- 1・21 (火) 南多摩地区
- 1・23 (木) 北多摩北部地区
- 1・27 (月) 北多摩南部地区
- 1・29 (水) 北多摩西部地区
- 1・31 (金) 農業委員会活動研究会
- 2・5 (水) 組織活動検討委員会
- 2・12 (水) 理事会
- 2・12 (水) 常設審議委員会
- 2・12 (水) 大会運営委員会
- 2・20 (木) 第66回農委会・農業者大会
- 3・7 (金) 主任職員協議会
- 3・7 (金) 都職研役員会
- 3・17 (月) 通常総会
- 3・17 (月) 常設審議委員会

続いて、瑞穂町の農業者である野元裕樹さん、森尋さんの作業場にて、別経営体のふたりが協力をし合って行う営農の特長などの話しを聞きました。

参加した新規就農者、JA都青協の役員などからは、大変に勉強になったとの声がありました。